

第 7 回 HALS グループミーティングを終えて

この度は、皆様の多大なご協力のおかげで、無事に第 7 回 HALS グループミーティングを開催することができました。

今回のグループミーティングでは「可能性の探求」をテーマに掲げ、今後の HALS の発展を考えるうえで、HALS が外科学の中でどういった役割を担うべきかに重点をおき、内容を決めさせていただきました。

色々悩んだ末に、一般演題とともに、HALS 特有の問題点のなかの「完全鏡視下から HALS への移行」と「HALS の創からできること、できないこと」を要望演題とし、多くの先生方のために HALS 手技の習得に特化した「HALS 手技の knack & Pitfalls (食道、膵臓、肝臓)」をショートレクチャーとしてプログラムを組みました。

そして、不安の中で始まったグループミーティングでしたが、結果として 4 時間がむしろ短く感じるくらい白熱した議論ができたことは、当番世話人として非常に感慨深いものがありました。

私が感じている今回のグループミーティングの一番の成果は、HALS の問題点や概念を皆で真剣に議論し、新たな HALS の定義を確立する第一歩になったのではないかとこの点です。HALS の役割を皆で議論する中で、開腹手術と鏡視下手術の「橋渡し (Bridge)」的な HALS と、開腹手術から完全鏡視下手術への変遷の中で最終的に一番合理性をもった「最終形 (Final form)」としての HALS という概念を皆で共有できたことは、私にとって非常に新鮮な発見であり、もやもやしてものがずっと晴れた感じがしました。

合理性を追求したものが HALS であるならば「橋渡し」の HALS も「最終形」の HALS もともに HALS であり、これが、我々が将来に向けて探求していくべき HALS の「可能性」ではないかと感じました。

また、新しい試みとして、参加された医師の皆様にアンケートをいただきました。これは HALS をいかに普及させていくかを考えるうえでとても重要な資料になると思います。集計の結果はホームページや研究会で後日ご報告させていただきます。

過去最多のご参加をいただき、盛会裏に終えることができましたのは、ご参加いただいた皆様、協賛いただいた各企業の皆様、会の運営に直接携わっていただいたジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、コヴィディエン ジャパン株式会社、アプライドメディカル株式会社、株式会社メディカルリーダーズの皆様、そして研究会事務局の木島さんのおかげだと考えております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2016 年 10 月 30 日

第 7 回 HALS グループミーティング当番世話人
日本大学病院 消化器外科
萩原 謙

第7回グループミーティング開催風景



